

## 〈共同研究報告〉

保育士養成における体験学習の実施状況  
及び教育効果に関する検討木村 志保\*, 津田 尚子\*\*, 小口 将典\*  
立花 直樹\*\*\*, 仲宗根 稔\*\*\*\*, 西元 直美\*\*\*A discussion on the educational effects and implementation state  
of the experiential learning in nursery teacher trainingShiho Kimura, Naoko Tsuda, Masanori Oguchi,  
Naoki Tachibana, Minoru Nakasone and Naomi Nishimoto

**要旨：**本稿の目的は、保育士養成（専門職養成）に関する実態把握を行い、課題を抽出・整理し、保育士養成の質の向上及びよりよい保育実践につなげることである。調査対象は、本研究調査の趣旨について理解し、調査内容に同意が得られた、全国の保育士養成校のうち、計47件（4年制大学23件、短期大学24件）に所属する保育士養成課程の専任担当教員である。本稿に関連する調査内容は、インターンシップ・見学実習（観察実習）・ボランティア体験等の実施の有無およびその具体的内容についてインタビュー調査を実施し、考察を行った。調査の結果、体験学習のうち、ボランティア体験及び見学実習に関しては、インターンシップと比較すると、実施している対象校が多いことが明らかとなった。また、これらの体験学習の教育効果として、観察や体験を理論と結びつけ、学習意欲の向上や保育実践力を養う機会となることも明らかとなった。

**Key words：**保育実習 保育実習指導 体験学習

## はじめに：研究目的と背景

2011年4月に施行された保育士養成カリキュラムの改正（以下、カリキュラム改正）の基本的な考え方として（全国保育士養成協議会、2005）<sup>1)</sup>、①保育士養成や保育現場の諸課題に対応した見直しを行い、

現場の実践や保育士の専門性を十分に踏まえた内容とする、②実習や実習指導の充実を図るとともに、実習受け入れ施設の範囲や要件を見直す、等が示されている（保育士養成課程等検討会、2010）<sup>2)</sup>。保育士養成において、保育実習はその中核となるものである。

\*関西福祉科学大学 社会福祉学部 講師

\*\*関西女子短期大学 講師

\*\*\*関西福祉科学大学 社会福祉学部 准教授

\*\*\*\*関西女子短期大学 教授

また、保育に関する体験学習は、次の実習への導入という目的だけではなく、学生の学習意欲や動機づけにも大きな役割を果たしていると考えられ、その実践報告や学習効果等についてもいくつかの報告がある(中原：2006、渡辺：2009)<sup>3,4)</sup>。また、インターンシップに関しては、文部省(現：文部科学省)、通商産業省(現：経済産業省)、労働省(現：厚生労働省)が取りまとめた「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」において、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と広く定義されている(文科省、2009)<sup>5)</sup>。文科省によると、インターンシップの実施状況は、2007年度には大学の約7割がインターンシップを実施し(2005年度に比べ約4倍に増加)、約5万人の大学生がインターンシップを体験している。さらに、インターンシップの目的を、①学習意欲の向上、②知識・技能の充実・深化、③高い職業意識の醸成、④責任感・自立心の形成、⑤独創性・チャレンジ精神の醸成とし、今後、キャリア教育の全体像の中でのインターンシップの位置付け・目的を明確化する必要性が示されている。

本研究の目的は、保育士養成(専門職養成)に関する実態把握を行い、課題を抽出・整理し、保育士養成の質の向上及びよりよい保育実践につなげていくこととした。具体的には、インターンシップ・見学実習(観察実習)・ボランティア体験等の実施の有無およびその具体的内容についてインタビュー調査を実施し、考察を行った。なお、保育実習指導(事前事後指導)の現状と課題に関しては、全国保育士養成協議会第51回研究大会(題目：新カリキュラム

に対応した保育士養成プログラムの検討I)<sup>6)</sup>において報告を行った。本報告では、体験学習の実施状況を整理し、今後の課題について考察する。

## I. 調査概要

### 1. 調査対象・期間・調査方法：

調査対象については、全国の保育士養成校協会に加盟する会員校(会員校総数：487校)のうち、本研究調査の趣旨について理解し、調査内容に同意が得られた、計47件(4年制大学23件、短期大学24件)に所属する保育士養成課程の専任担当教員とした。調査期間は、2011年11月～2012年3月の期間とし、調査対象校へ訪問し、インタビュー調査を実施した。調査項目は、1)基本属性、2)体験学習の実施の有無・実施回数、3)実施内容、4)システム・担当部署、5)その他(教育効果・課題他)、とし、インタビューガイドに沿って調査を行った。

### 2. 調査内容・分析方法：

調査内容は、体験学習の実施の有無、実施回数、具体的実施内容とし、意見の聞き取りを実施した。具体的には、1)基本属性、2)体験学習の実施の有無・実施回数(実施学年・時期、頻度、時間数)、3)実施内容(目的・内容)、4)システム・担当部署、5)その他(教育効果・課題他)である。また、「体験学習」を以下のように分類した。

①「インターンシップ」は、キャリア体験や社会体験を主とするものとした。

②「見学実習」は、「保育実習指導」等の授業・科目の一環として実施する児童福祉施設や教育機関(保育所・幼稚園・その他

の施設等)への見学とした。

③「ボランティア体験」は、学生による「社会貢献活動」等とした。

インタビューで得られた回答は、各項目毎に転記・集計し、調査対象校に共通及び特徴的な項目や文章を抽出し、内容の分析を行った。

### 3. 調査研究における倫理上の配慮：

対象となる団体・個人の人権擁護のための配慮（団体及び個人名・情報等）として、本調査の回答結果については、団体名・個人名・情報等が特定されないよう匿名で実施し、統計的处理（集計、分析）を行い本研究の目的にのみ使用することを文書に明記した。本調査対象機関に対して事前に文書により同意を得た。

## Ⅱ. 調査結果

調査対象校は計 47 件（4 年制大学（以下、大学）23 件、短期大学（以下、短大）24 件）であった。その内訳を地域ブロック別にみると（全国保育士養成協議会による地域ブロック分類、降順）、近畿ブロック（22 件）、中四国ブロック（7 件）、関東ブロック（6 件）、中部ブロック（5 件）、九州ブロック（5 件）、東北ブロック（1 件）、北海道ブロック（1 件）であった。

対象校における保育士養成課程の 1 学年の定員（学科及び専攻、コース）の範囲に関しては、大学は 30-140 名、短期大学は 50-200 名であった。そのうち、最も多くの割合を占める定員数は「51-100 名」であり、大学では 16 件（69.6%）、短大では 12 件（50.0%）であった（表 1）。取得可能資格及び免許（保育士資格以外）に関しては、大学は、幼稚園教諭一種免許、小学

表 1 保育士養成課程の定員数（件数）

定員	大学	短大	計
50 名以下	3	3	6
51-100 名	16	12	28
101-150 名	4	5	9
151-200 名	0	3	3
201 名以上	0	1	1
計	23	24	47

表 2 取得資格（件数、重複回答）

大学 (23 件)	保育士	幼稚園教諭 (一種)	小学校教諭 (一種)	社会福祉 主事
	23	21	18	10
短大 (24 件)	保育士	幼稚園教諭 (二種)	小学校教諭 (二種)	社会福祉 主事
	24	23	3	18

校教諭一種免許、社会福祉主事任用資格の順に多く、短期大学は、幼稚園教諭二種免許、社会福祉主事任用資格、小学校教諭二種免許の順であった（表 2）。その他の取得資格及び免許として、その件数については省略するが、レクリエーション・インストラクター、児童厚生 1 級指導員、児童指導員、特別支援学校教諭、さらに、認定資格として、認定ベビーシッター、保健児童ソーシャルワーカー、こども音楽療法士、こども環境管理士、等があげられた。

### 1. 体験学習（インターンシップ、見学実習および観察実習、ボランティア体験）の実施状況

「インターンシップ」に関して、見学実習やボランティア体験と比較すると実施している対象校が少なく、調査対象校 47 件のうち、大学及び短大を合わせて 8 件（17.0%）であった。「実施している」と回答した対象校のうち、インターンシップを正規科目として単位化している対象校は 4

表 3 体験学習等の実施状況 (件数、重複回答)

	インターン シップ	見学実習	ボランティア 体験
大学 (23 校)	6	14	14
(単位化)	(3)	(13)	(4)
短大 (24 校)	2	10	20
(単位化)	(1)	(9)	(1)
計	8	24	34

件であった。

「見学実習」について「実施している」と回答があった対象校は、大学は 14 件 (60.9%)、短大は 10 件 (41.7%) であった。

「ボランティア体験」について「実施している」と回答があった対象校は、大学は 14 件 (60.9%)、短大は 20 件 (83.3%) であった (表 3)。

## 2. 体験学習の取り組み内容

「インターンシップ」の実施内容は、例えば、「保育所・幼稚園・施設等で計 45 時間以上のインターンシップを実施し単位認定を行う」、「1・2 年次は必修履修、3・4 年次は選択履修とし、単位認定を行う」など、時間数に応じて 1-2 単位程度の単位認定を行っている対象校が複数みられた。科目名は、「子育て支援演習」「子育て支援実践演習」「保育インターンシップ」等である。単位化していない対象校の実施状況は、就職担当部署や資格取得支援部署であるキャリアサポートセンターや就職支援センターが窓口となり、インターンシップ実施先である保育所や施設と調整・斡旋し、実施しているケースが多いことが明らかとなった。

「見学実習」の実施内容は、保育実習事前指導の科目の一環として半日～1 日程度

の見学実習を組み込んでいるケースが多く、正規科目外で実施している対象校は、実習前に見学・観察実習等の保育現場の体験を行うことを義務付け、実習条件としている対象校もみられた。正規科目として位置付けている場合の科目名は、「保育実習指導」「保育実践演習」「子育て支援演習」「子ども学実習」「保育者論」等である。「保育実習指導」のうち、事前指導において、保育実習実施機関への事前見学・観察実習を半日～1 日程度実施している対象校もみられた。また、保育所・幼稚園・施設・子育て支援センター等、施設種別毎に 1 回以上見学実習を実施する対象校もみられた。

「ボランティア体験」を実施していると回答した対象校のうち「ボランティア体験は、大学 (短大) から推奨および案内は行うものの、参加については学生の自主性に任せている。単位化はしていない。」という回答が多いことが明らかとなった。しかし、「保育実習」の履修条件として、1 日～数日の自主実習 (任意実習) やボランティア活動の実施を義務付けている対象校もみられた。さらに、学科および専攻、学年を単位として、さまざまな分野 (福祉・教育他) におけるボランティア活動を実施している対象校もみられた。その内容は、通年での学内外～地域における行事・イベント (地域の祭り、大学祭) への参加・発表、社会的活動・地域貢献活動等である。具体的には、福祉施設の利用者のキャンプや運動会、保育所のクリスマス会、児童館・児童デイサービスへの参加、学内で運営・実施されている子育て支援ひろば・子育て支援センター等がある場合の定期的な活動の実施、被災地へのボランティア支援活



表 4 体験学習の実施内容例（抜粋）

	内容	科目名・位置づけ	担当部署・システム	効果・課題
インターンシップ	○正規科目化・単位化されているケース→保育所・幼稚園・施設等で一定の時間以上（時間数に応じて）実施することで単位認定 インターンシップ先（機関）→保育所・施設・幼稚園等の実習機関へのインターンシップ実施。	【科目名（例）】「子育て支援演習」「子育て支援実践演習」「保育インターンシップ」「保育実地研修」等。 ○位置づけ：任意（自主）実習。「保育実習」終了後に実施するよう指導。	○単位化・正規科目化されていない場合の担当部署：「キャリアサポートセンター（資格取得支援部署）」、「教育支援センター（実習支援拠点）」、「就職支援センター、学生部、就職部（就職担当部署）」、などが窓口となり、インターンシップ実施先である保育所や施設を斡旋・調整し、実施しているケースが多い。	○教員の負担が大きい（個別対応・指導、施設との連絡調整・訪問指導やフォローアップ）。 ○（短大）実施する時間がない。 ○学内において就職担当部署・学生部などと連携・協力し、実施することで就職につながり、卒業後も組織的にフォローアップを行うことも可能。
見学実習	○「保育実習」の実習機関への見学（事前学習）。半日～1日程度の見学実習を実施（事前にオリエンテーション実施）。 ○保育所・幼稚園・施設・子育て支援センター等、各施設種別毎に1回以上見学実習を実施する対象校もあり。	【科目名（例）】「保育実習指導」「保育実践演習」「子育て支援演習」「子ども学実習」「保育者論」等。 ○「保育実習（事前）指導」科目の一環として半日～1日程度の見学実習・観察実習を組み込み実施。学生主体で実施（任意見学実習）されるケースもあり。	○正規科目外で実施している対象校は、実習前に見学・観察実習等の保育現場の体験を行うことを義務付け、実習条件としている対象校もみられた。 ○担当：実習担当教員および実習担当部署（実習室）などが調整を行う。	○授業内で実施した場合、見学実習・観察実習を実施後にうまく生かせないケースあり。フィードバック・事前指導の必要性。 ○実施前に事前オリエンテーション・実施後にフィードバックを行うことで、観察・体験を理論と結びつけ、学習意欲の向上、実習計画書作成に活かすことが可能。
ボランティア体験	○通年での学内外～地域における行事・イベント（地域の祭り、大学祭）への参加・発表、社会的活動・地域貢献活動等。 ○施設機関：【福祉施設】（利用者のキャンプや運動会）。【保育所】（クリスマス会）。【児童館・児童デイサービス】（活動・プログラムへの参加）。【幼稚園・小学校】。 ○学内で運営・実施されている【子育て支援ひろば】【子育て支援センター】等がある場合、定期的な活動の実施。 ○被災地・被災者へのボランティア支援活動等。	【科目名（例）】「地域学習」「ボランティア実習」「保育ボランティア体験」 ○ボランティア体験については推奨し、大学（短大）から案内・情報提供は行うものの、参加については学生の自主性に任せており、単位化はしていない、という回答が多い。 ○学生主体のボランティア組織・サークルによる活動。 ○「保育実習」の履修条件として、1日～数日の自主実習（任意実習）やボランティア活動の実施を義務付けているケースもあり。	○学科および専攻、学年を単位として、さまざまな分野（福祉・教育他）におけるボランティア活動を実施しているケースもあり。 ○担当・窓口：学科・学内の専任教員。学内ボランティアセンター。学生サークル。【学生ボランティア活動支援室】（全学組織）。	○ボランティアを通じて就職につながるケースあり。調整やフォローアップの必要性。 ○ボランティア実施機関との調整・フォロー等の教員負担。 ○保育体験や活動等を通年で経験することで、保育実践力を養うことができる。実習機関やインターンシップ機関において、継続的に活動するケース、就職に結びつく（専門職に対する意識の向上）もみられる。

動等である（表4）。

### Ⅲ. 考 察

体験学習のうち、「ボランティア体験」及び「見学実習」に関しては、「インターンシップ」と比較すると、実施する対象校が多いことが明らかとなった。この要因として、児童福祉施設（保育所・施設）や教育機関（幼稚園）等からのボランティア募集の機会も多いこと、また、見学実習の機会は大学から依頼することで実施可能となるのに対し、インターンシップは実施・受け入れ先（人数）が限られており、大学の

意志だけでは実施が難しいこと、等が考えられる。インターンシップの実施が可能となるためには、施設（保育所等）との連携、学内においてインターンシップ実施調整機関が機能することが必要となるであろう。

「ボランティア体験」に関しては、「実施している」と回答した対象校のうち、ボランティア体験を正規科目として単位化している対象校は少ない（14.7%）。

学生に対してボランティア活動を推奨し、1) 斡旋や情報提供・募集は行う（窓口：学内教員、学内ボランティアセンター

等)ものの、その参加については学生の主体性に任せる、2) 学生サークル・学生の自主活動にて実施、3) 全学・学科内においてシステム化－組織的に運営・環境調整・地域や外部団体との連携・活動を推進する対象校もみられた。カリキュラム変更後、ボランティア活動を正規科目化するケースもみられた。それ以外の対象校は、活動の単位化(正規科目化)はしがたいものの、その必要性や学習効果は重要視されていることが明らかとなった。今後の課題として、ボランティア実施機関との調整・フォローアップの必要性等があげられるが、一方では、「保育体験や活動を通年で経験することで、保育実践力を養うことができる。」「実習機関やインターンシップ機関において、継続的に活動するケース、就職に結びつくケース(専門職に対する意識の向上)もみられる。」とその体験(学習)効果があげられた。

「見学実習」に関しては、実施している対象校のうち、見学実習を正規科目化している対象校は多い(91.7%)。「保育実習指導」等の科目において、実習事前学習の一環として実施する養成校が多い。「見学実習」は、保育実習機関である保育所・施設の見学(半日～1日程度)を行うケースが多く、また、その目的として、①保育現場を知る、施設全体の業務・活動の流れを知る、②保育現場における子どもの姿を知る、③保育士の業務や役割を知る、等があげられた。課題として、「授業内で実施した場合、見学実習・観察実習を実施後にうまく生かせないケースがあり、フィードバック・事前指導が必要」等があげられたが、一方では、実施前に十分な事前オリエンテーション、実施後にフィードバックを

行うことで、観察・体験を理論と結びつけ、学習意欲の向上、実習計画書作成に活かせる、等の学習効果があったといえる。

「インターンシップ」に関しては、見学実習やボランティア体験に比べて実施している対象校が少なく、大学は6件(26.1%)、短大では2件(8.3%)、計8件(17.0%)であったが、「実施している」と回答した対象校のうち、インターンシップを正規科目として単位化している対象校は計4件(50.0%)であった。任意(自主)実習(保育実習とは区別)としての位置づけとし、1) 正規科目化(「保育インターンシップ」や「保育実地研修」)をする、2) 「キャリアサポートセンター(資格取得支援部署)」「教育支援センター(実習支援拠点)」「就職支援センター、学生部、就職部(就職担当部署)」等が窓口となり、各施設機関や幼稚園連盟などの団体と連携し実施するケースもみられた。

筆者らの所属する関西福祉科学大学および関西女子短期大学における実施状況を以下に示す。1) 「保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の事前学習として、実習配属予定施設において見学実習(2時間～1日)実施・報告書作成の義務付け(関西福祉科学大学・関西女子短期大学)、2) 基礎演習の時間を活用した附属幼稚園での1時間のふれあい体験(関西女子短期大学)3) 体験ボランティア体験(附属幼稚園等)・活動の機会(地域子育て支援事業として子育て支援サークルの開催、)を学科教職員が調整・提供。保育・施設・幼稚園実習の事前学習として学期内に3～5回参加することの義務付けし、基礎演習・研究演習の評価に織り込む(関西女子短期大学)、4) ボランティア活動を推奨し斡旋や情報提供・募集・調整を教員

等が行い、学生サークルや学生の自主的な活動により実施、5) インターシップ受入施設の情報提供、学生申し出に応じて発掘・手配マネジメント等である。本学の保育士養成においても、これらの体験学習の機会を重要視しており、「保育実習（事前）指導」における、実習計画書の作成や指導案（部分・責任実習の指導計画）の作成などに大きな意味を果たしている。現在実施している体験学習とその学習・教育効果についても今後検証し、教育内容の改善につなげていくことも必要である。

課題として、学生に対する個別対応や指導、実施施設との連絡調整・訪問指導やフォローアップなどの教員負担が大きいことがあげられ、修学期間の短い短期大学では実施する時間が取りにくい現状があるといえる。一方では、学内において就職担当部署・学生部などと連携・協力し、実施することで就職につながり、卒業後も組織的にフォローアップを行うことも可能であることが考えられる。

本研究における調査対象校の体験学習の実施状況から、ボランティア体験、見学実習、インターンシップなどの体験学習の実施は、前述のように、教員の負担が大きいにもかかわらず実施されていること、また、養成校によっては体験学習の単位化（正規科目化）を行っている対象校もあることから、こうした体験学習が学生の実習教育として有効であることが推測される。さらに、保育実習の事前準備・学習（実習計画書作成や学習課題の明確化）に活かすことで学習効果や保育専門職に対する意識・意欲の向上が予想され、前述の先行研究

とも共通するといえる。しかし、本調査における体験学習の教育効果についての効果測定・分析は十分ではないため、今後の課題としたい。

これらの体験学習が質の高い保育実習及び保育専門職養成の一助となるよう、今後、その実践と効果検証（教員役割：評価、フィードバック、実践方法の工夫、学生：実践の言語・記録化、ケース研究・分析、マネジメント体制：人員、役割分担）を重ねていくことが必要であるといえる。

\* 本研究は全国保育士養成協議会第 52 回研究大会において発表した抄録原稿を修正・加筆した。また、平成 23 年度関西福祉科学大学共同研究助成を受けて実施した。

#### 参考文献

- 1) 全国保育士養成協議会（2005 年）、『保育実習指導のミニマムスタンダード』
- 2) 保育士養成課程等検討会（2010 年）、『保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）』
- 3) 中原大介（2006 年）、「保育体験実習が学生の学習意欲に及ぼす影響についての一考察」、『大阪健康福祉短期大学紀要』、第 4 号、pp.103-104.
- 4) 渡辺俊太郎、佐伯知子、森下規代子（2009 年）、「現場での学びを活かした保育士・教員の養成－全学年における年間インターンシップ実習の取組－」、『大阪健康福祉短期大学紀要』、第 4 号、pp.157-172.
- 5) 文部科学省高等教育局専門教育課（2009 年）、「インターンシップの導入と運用のための手引き～インターンシップ・リファレンス～」
- 6) 豊田志保、田中ゆき江、津田尚子、小口将典、立花直樹、津山恵子、仲宗根稔、新川泰弘、西元直美（2012 年）、「新カリキュラムに対応した保育士養成プログラムの検討Ⅰ」『全国保育士養成協議会第 51 回研究大会発表論文集』